

■米国：PJMが容量市場ルールの見直しに着手

米国最大の地域送電機関（RTO）であるPJMは2014年の1月、記録的な寒波によって安定供給が脅かされる電力系統の危機に直面した。寒波が到来した1月7日には調達した供給力のうち予想を3倍以上も上回る22%の電源が計画外停止するとともに冬季最大需要電力を記録した。天然ガスに大きく依存していたPJMは、系統運用が困難になった上、極度の寒さのために発電所の機械的なトラブルや石炭や天然ガスの輸送にも問題が生じ、多くの発電所が停止を余儀なくされた。当日はデマンドレスポンス、隣接系統からの電力融通、電圧を下げての系統運用などにより負荷遮断は回避したものの、PJMにとっては苦い経験となった。PJMでは供給力確保策として容量市場を導入しているが、1月の経験から現行の容量市場ルールでは年間を通して供給信頼度を維持するためのインセンティブとペナルティが十分ではないと判断し、容量市場のルール見直しに着手した。原子力発電所は寒波時でもトラブルなく運転を継続した高い信頼性を実証したことから、今回のルール見直しにおいて他のベース電源とは差別化された有利な評価を獲得する可能性もある。